

今年も公立高校入

試解説記事を執筆

しました！

塾長 金坂嘉一

2024年度公立高校選抜試験 出題傾向

国語

記号問題多く全体平易

前年度と大問構成は同じだった。漢字の書きが1問減り、この2点分が大問四と六に1点ずつ加算されている。

大問一は聞き取り。前年度より解答しやすかったのではないかと。

大問二と大問三は漢字。大問三は説明的文章の読解。(1)は唯一の文法問題だ。

(4)の選択に迷った受験生も多かった。

大問五は文学的文章読解。大問六は古文。漢文の返り点の問題は選択問題になり、解答しやすかったのではないかと。

大問七は作文。全体的に記号問題が多く、易しめで平均点は上がりそうだ。

(金坂 嘉一)

数学

2度作図 正解への鍵に

前年度と大問構成は同じであった。

大問一は小問集合。小問が一問増えた。小問(3)で標準調査について2題出題された。作図では、垂直二等分線を2度作図する(2)に気づけなかったが鍵だ。

大問二は関数。解答しやすかったのではないかと。

大問三は平面図形。証明問題は平易だが、(3)はかなり難易度が高い。

大問四は数学的思考力を見る問題。(2)・(3)は戸惑った受験生も多かったのではないかと。全体として易しい問題が多く、平均点は高くなるものと予想される。

(金坂 嘉一)

英語

英作文、漫画2題の構成

前年度と大問構成は同じだったが、小問構成や配点が少し変わった。

大問1〜4はリスニング問題。大問4は昨年度までの英語を書かせる問題4題から選択問題2題に減った。

大問5は文法問題で昨年度並である。

大問6は英作文。2コマ漫画が2題という構成に変わった。大問7と大問8は長文読解。形式的には昨年度同様だが、配点が大きく増えた。

大問9は会話文で例年通り。平均点は昨年度同様かやや上がるだろう。

(金坂 嘉一)

社会

大問構成は昨年度と同様であった。

大問一は千葉県連。小問が1題減った。ベトナム戦争、マルタ会議、イラク戦争などの整理問題が出題された。

大問二は日本地理。地形図もここで出題されている。昨年度多用された写真問題がないのが特徴だ。

大問三は世界地理。ロシアの高床建物や電源構成などについて問われている。

大問四は江戸時代までの歴史。昨年度多用された写真がなく、今回は出題が和歌に統一されている。しかし、和歌そのものではなくパネル内の説明文に基づいて聞かれているので、受験生にもそれほど違和感はないかと思われる。

大問五は明治以降の歴史。ここでは逆に写真が多く使われていた。例年と違って年表がないのが特徴だ。佐藤栄作、池田勇人、田中角栄といった人名は受験生世代には馴染みが少なく戸惑ったかもしれない。

大問六は経済分野。(2)の20字以内で記述させる財政政策の問題は、表現力が問われている。大問七は政治分野の司法関連からの出題。大問八は国際関係。

記述問題と記号問題のバランスもよく、平均点は昨年度並ではないか。(金坂 嘉一)

記述、記号問題偏りなく

大問9は月について。(4)の距離と大きさの関係は会話文をよく読むことが必要だ。

大問8はマグネシウムと銅の酸化について。(1)で四線を使って答えさせる出題は初。電子探点の影響かもしれない。

大問9は、生物同士のつながりからの出題である。

全体的に平易であり、平均点は昨年度程度になるのではと思われる。(金坂 嘉一)

理科

問題構成や配点は前年度と同様であった。

出題範囲は中1から中3まで、物理、化学、生物、地学からバランスよく出題されている。

大問一は小問集合。平易な内容を問う問題だ。

大問二は、気体の発生について。すべて選択問題だ。

大問三は光合成について。(1)の対照実験について、24字以内で説明する問題は、表現力が問われる問題である。大問四は電流と磁界について。(1)のオームの法則は基本的な計算なので多くの受験生は正解を導けたのではないかと。

大問五は地層について。(4)の柱状図を書

四線で答える問題は初

問題は、標高と絡めて考える必要があるもので、戸惑った受験生もいるだろう。

大問6はフックの法則と浮力を融合した問題である。実験2では動滑車が使われているのでグラフの作成はやや難しく感じた受験生もいる。

大問7は月について。(4)の距離と大きさの関係は会話文をよく読むことが必要だ。

大問8はマグネシウムと銅の酸化について。(1)で四線を使って答えさせる出題は初。電子探点の影響かもしれない。

大問9は、生物同士のつながりからの出題である。

全体的に平易であり、平均点は昨年度程度になるのではと思われる。(金坂 嘉一)